

(資料54) 平成19年度省エネ対策について

平成19年6月

研究所の平成18年度エネルギー消費量(18年度計画目標は対12年度比で床面積当たり20%以上削減)は、12年度比・床面積当たり23%の減少となり、また、温室効果ガス排出量(18年度計画目標は対13年度比で総排出量の14%以上削減)は、13年度比・総排出量17%の減少となった。

第2期中期計画におけるエネルギー消費量については、単位面積当たりの電気・ガスの使用量を平成12年度比で20%以上削減、温室効果ガス排出量については、総排出量を13年度比で14%以上削減を目標としており、当該目標についてはいずれも18年度に達成したものの、研究活動の状況、気象条件等の変化要因を考慮し、19年度においては当該削減目標値を維持することとして次のような省エネ対策を推進することとする。

1. 大型施設等の計画的運転停止

各ユニット等の協力を得て、大型施設等の計画的運転停止を(別紙1)のとおり実施する。

なお、各棟・各施設の自主的判断による追加的措置の実施を期待する。

2. 冷暖房の合理化

今年度の冷暖房は、昨年度と同様次の方針により実施する。

2-1 夏季の冷房

(1) 冷房実施の目標

夏季の冷房は、午前8時～午後8時の間、室温を28℃に維持することを目標とする。

(2) 冷房目標を達成するためのエネセン及び各室の取組

①エネルギーセンター(エネセン)においては、空調機の運転管理を行うとともに、ファンコイルユニット(FCU)を良好な状態に保つ。

②各室においては、職員が退所する際(午後8時以降退所する場合は午後8時)は、各室の職員が冷房のスイッチを切るようにする。

2-2 冬季の暖房

(1) 暖房実施の目標

冬季の暖房は、午前8時～午後8時までの間、室温を19℃に維持することを目標とする。

(2) エネセン及び各室の取組

上記の暖房目標を達成するため、2-1(2)に準じて取組を行う。

2-3 冷暖房に関する配慮事項等

- ①通常の勤務時間内に室温が目標温度を満たせない場合は、各室の職員の申し出により、施設課・共通施設係（内線 2364）において可能な範囲で対応に努める。
- ②実験業務が深夜に及ぶなど特別の必要がある場合は、その業務の代表者の申し出により、施設課・共通施設係（内線 2364）において冷暖房の配慮を行う。
- ③恒温室など特殊空調系の施設は、従来通りの室温管理とする。

3. ESCO 事業等の推進

- (1) 環境配慮の面から省エネを進めるため、17 年 7 月から開始した ESCO 事業の各手法の省エネ化率の上昇に努め着実な推進を図る。
- (2) 省エネ型ターボ冷凍機、大型ポンプのインバーター装置を最大限に活用し、省エネに取り組む。
- (3) 夜間蓄電システムを最大限活用し、効率的な電気使用を行う。

4. その他の取組

(1) 服装による工夫

省エネ対策のため冷暖房の設定温度に合った服装（クールビズ等）を心掛ける。

(2) 所内エネルギー情報の公表

所内各施設のエネルギーの時間毎の電力使用量をイントラに掲載するとともに、毎月のエネルギー消費状況を把握し、ユニット長会議・運営協議会に報告する等、各棟・施設での自主的・積極的な省エネを呼びかける。

(3) 更なる省エネ対策の実施

省エネ対策の結果を踏まえつつ、施設整備費等により、施設の改修・更新の際に省エネを考慮し実施する。

(別紙1)

平成19年度省エネ停止施設

施設名	停止計画の内容	容量(KW)
動物I棟	飼育室(6F)空調時間の短縮(通年)	200
生物環境調節実験施設	ガス暴露チャンバーの停止(7/中旬~8/下旬 35日間)	50
水質水理実験棟	海水マイクロゾムの停止(8・9月)	30
大気拡散実験棟	風洞の停止(1週間程度の停止を10~12回)	150
	平日の週1日停止	150
大気共同実験棟	空調時間の短縮	10
研究I棟	スーパーコンピュータの停止(8月~9月のうち30日間)	250
高度化学実験施設	FT-MSの停止(通年)	6
循環・廃棄物研究棟	熱処理プラントの停止(7/1~8/31の間の4週間)	50
	乳酸発酵・回収装置の停止(7/1~8/31の間の4週間)	40
RI・遺伝子工学実験棟	RI棟: 夜間・休日の空調・給排気の停止	22
	遺伝子工学棟: 空調を一般系に変更	170
地球温暖化研究棟	FT-IR装置の停止: 土・日・祝日	4
	人工気象室の空調制御・人工光源の節約(通年)	11.5
低公害車実験施設	実験施設の停止(7/1~8/31)	250
	土・日・祝日・夜間の停止	250
共同利用棟	電算機資料室空調の停止(通年)	5
	実験制御室の空調温度の設定変更(通年)	5